

P T A活動に想うこと

思い出します、平成10年12月のある日、当スクール本部教室2階教室で授業の準備をしていたところ、入って来る生徒達が口々に「僕（私）の親が、駐車場に来てるんだけど。」と言う。「???今日は父兄との面談はないし、もう授業が始まるからそんなことはないと思うよ」と私。そんな会話を交わした直後、聴き慣れた知人の声。「すいません、山下先生、ちょっとお話が」急いで、2階から玄関を覗くと、知人のW氏が玄関に立っている。「ごめんなさい、Wさん。もう授業が始まるんで。」と言うや否や、「大丈夫です！生徒の父兄はみんな了解してしてます！」と、こちらも聴き慣れた数人の当スクール生のご父兄の声。「えっ！」と、2階の窓から駐車場を見下ろすと、W氏を筆頭に十数人の生徒の父兄が並んでいる。「何ですか？」と言うと、W氏が1階の玄関から「今日は山下先生に、来年度青島北小のP T A会長をやって頂きたい、お願いに来ました！」と叫ぶ。「えっ！P T A会長！この学区で塾をやっている私に？しかも、うちの娘は今4年生で、来年6年生じゃないよ。あごひげを生やしているから、P T A会長には似合わないよ。」と反論する。「勿論、それは百も承知でお願いに来ました！多くの皆さんのご推薦です！」と。授業前であることから返事は明日と言うことで、とりあえず今日は皆様には帰って頂いた。その日は、正直授業どころではありませんでした。

確かに、私の長女が幼稚園の頃、園長先生が高校の後輩であることから、幼稚園でもP T A会長の依頼がありました。でも、ここで受けたら、絶対小学校のP T A会長、中学校のP T A会長と続く。しかし、翌日も皆さんがお願いに来られ、もう引くこともできない雰囲気でした。仕方なく役員会や運営委員会などの会合はすべて「土曜日の午前中開催」とさせて頂く条件で、仕方なく引き受けざるを得なくなったのです。勿論、学習塾を運営する私の仕事の都合上、平日土曜日の夜の会合には私が参加できない理由が第1です。加えて、下に幼稚園以下の子どものもおられるご家庭が多い小学校で、夜子ども達だけを残して親がその子ども達のP T A活動に出かけることは、私達夫婦はできないと言うのが第2の理由です。

そうして開かれた第1回運営会議の冒頭、一人の役員さんから「土曜日の午前中開催」に異議を唱えられ、平日の夜開催がこれまでの通例と主張されました。私は「土曜日の午前中開催」がP T A会長就任の条件だったことを明かし、幼い子ども達を家に残してその子ども達のP T A活動をするという可笑しい常識を改めたいと主張し、譲りませんでした。最終的には異議の唱えた役員の方も含め、役員全員が私の主張にご同意頂きました。勿論、土曜日仕事の方もおられ、「土曜日午前中開催」は、そうした方々のご協力があったからこそ実現したのです。学校教育が大きく変わろうとしている現在にあって、学校と家庭、地域が一体となって子ども達の教育環境に取り組むことは大変大切なことと思います。それ故に、こうした会合の土曜午前中開催は、週休2日制が定着しつつある今日、P T A活動に誰もが積極的に参加できる体制を作っていく中の一つではないかと思えます。

(中略) この間、PTA活動の省力化の話をさせて頂きましたたが、省略させて頂きます。)

そして、子供会長選出の変更です。前年度のPTA役員の皆さんのご努力で、PTAの支部長が子供会長を兼務することで、市子連からの連絡の徹底と、子供会とPTA活動との関係を密に致しました。勿論、その改革は前年度有効に進んでまいりましたが、支部委員会で必ず話題に上りましたのが、子供会活動が子ども主体にならず、担当のPTA役員が行事を決め、子ども達はただ参加するだけの状態であるということでした。

ご存じの通り、平成14年度からは完全学校週5日制が実施されますことから、地域に帰った子供達が生き生きとのびやかに過ごすことができるためにも、子ども達が自分達で考え、協力しながら子供会活動することはとても大事なことを考えます。支部によっては、既に子供会の企画・運営に子ども達が参加しているところもありますが、「子供会は子ども達自身の手で」という方向で、今年度から各支部ともに高学年の児童の中から子供会長を始め役員を選出し、子供会活動を子ども達の主体性に委ね、私達PTAは支部長・世話人として側面よりその活動を支えていくことに致しました。

しかしながら、それこそ習い事やスポ少と、日々忙しい最近の子ども達が、いかに活発に子ども会活動を行っていくことができるか。それは、私達、親がどこまで子ども達を信じて、任せられるか、そして、任せられた子ども達がその意味をどれだけ理解し、どれだけ主体的に行動するかにかかってきます。しかし、そこは私達の子ども達です。近い将来の活発な子供会活動を夢見て、まずは子ども達を信じて見守っていきたいと思います。

このほか、今年度各専門部や各支部でも、いくつか活動を見直し、精力的に取り組んで頂きました。ここでは、樹木の消毒のシルバー人材センターの活用と、自転車店協会のご協力を頂いての自転車点検の改善の2点をお伝えし、それぞれの引継事項に委ね、割愛させて頂きます。

さて、話が少し長くなりましたので、そろそろ締めくくらせて頂きます。今年度1年間、私達が取り組んできました「PTA活動方針、及び、努力目標」の達成度はいかがでしたでしょうか。

「語り合おう、夢。 伝えよう、やさしさ。」1. 家族として心ふれあう時間づくりに努めよう。2. 大人にも子どもにも、気軽に声を掛け合おう。3. 子どもの良さを見つけ、伝えよう。その成果は、PTA会員の皆様ひとりひとり、心の中で振り返って頂きたいです。

最後に、昨年の10月8日、当校PTA文化委員会主催で行われた文化講演会に、日本での心療内科創設に寄与し、現在心理カウンセリングの分野で広く取り入れられております「交流分析」を日本に紹介し、その理論と実践の両分野におきまして指導的立場にあり、私の心理学の師であります、杉田峰康・福岡県立大大学・大学院教授(当時)にお越し頂き、「子育て自己診断」と題してご講演を頂きました。先生のいつもの、具体的で分かりやすいお話で、子育て真っ最中の私達にとって、その一つ一つが大変大切なお話と承

りました。このご講演では「エゴグラムチェックリスト」について時間の関係上大まかなお話で留めましたことから、先生より「もし機会がありましたら、またお話下さい。」と承っておりましたので、その話で挨拶に代えさせていただきます。

杉田先生は、人間には誰にも、大人でも子どもでも、5つの心があるとお話しされました。それは、批判的な親の心と、保護的な親の心、そして、冷静に判断し、行動する大人の心に、感情的、本能的な子どもの心と、親をはじめ周りに順応する子どもの心のです。この5つの心の強弱は人により、また同じ人でも日によって異なるわけですが、それが人間関係をよくし、悪くするわけです。エゴグラムチェックリストは、その5つの心の強弱を図る一つの検査です。

そこで、よりよい人間関係を築くには、まずは自分の心の姿を把握することと言われました。勿論、人間の心は複雑ですので、5つの心の境界がはっきりせず、子どもの心が大人の心に深く進入した高所恐怖症もあれば、逆に親の心が大人の心を侵略した過保護、過干渉もあります。自分の心の姿に気付いたら、そのバランスを考え、ちょっとギアチェンジをすることだそうです。先生は、人間関係のこじれの原因は、この5つの心のバランスの乱れと指摘しております。恋愛は子どもの心と子どもの心の交流で、仕事は大人の心と大人の心の交流です。ところが、子どもが学校のテストでまた悪い点を取ってきた時、「ったく、だから、言ったでしょう、毎日少しずつでも勉強しなさいって。」明らかに、批判的な親の心が肥大化して、子どもの子どもの心に訴えているんですね。子どもは子どもで「んなこと言ったってしょうないじゃない、分からないものは分からないんだから。」と、親の心で親の子どもの心に反発します。こんな時、ちょっとギアを大人の心に切り替えて、「今回もできなかったけど、今日は何が原因だったかよ〜く考えてごらん。」と、大人の心で、落ち着いた声で、子どもの大人の心に語り掛けてみて下さい。きっといい親子関係が始まりますよ、と言われました。かく言う私も、そう簡単にギアチェンジはできませんが、心がけてみたいと思います。

古い日本のことわざに、「子どもを叱るな、来た道じゃ。年寄りを笑うな、行く道じゃ。」というがありますこととお伝えし、PTA会長退任の挨拶の言葉とさせていただきます。

(藤枝市立青島北小学校PTA総会・PTA会長退任の挨拶より抜粋しました。)

追記

私、山下は、平成11年度1年間、身分不相応にも次女が通う藤枝私立青島北小学校のPTA会長の大役を引き受け、不十分ながらもPTA活動のお手伝いをさせていただきました。それこそ子ども相手に”人の道”を説くのは慣れておりますが、大勢のPTA会員の皆様に前にお話しするのは最後の最後まで慣れず、お恥ずかしい話、当日も緊張の余りに口の中が乾ききってしまい、実にお聞き苦しいお話になってしまい、反省しております。そこで、このページをお借りしまして、簡単にこの1年間のご報告をさせていただきますが、今後のPTA活動について皆様のご意見をも伺い致したく掲載させていただきました。